

平市五町目六 電四一五一—四

|                              |                                |                                    |                    |                                                                                      |
|------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>精がつく薬</p> <p>パント錠</p>     | <p>漆器 額縁 美術品 雑貨 漆器</p>         | <p>医薬品卸</p>                        | <p>皮手袋</p>         | <p>商工會議所</p> <p>30米道路</p> <p>砂押商店</p> <p>平駅</p> <p>砂押忠八商店 平支店</p> <p>平市二丁目 電五〇七九</p> |
| <p>副腎・肝臓強化</p>               | <p>記念品・御引物勉強の店</p>             | <p>神谷薬品株式会社</p>                    | <p>ヨシタカハシ</p>      | <p>日本化学工業株式会社</p> <p>呉羽化学工業株式会社</p> <p>日本配合飼料株式会社</p> <p>肥料飼料卸商</p> <p>特約店</p>       |
| <p>合資会社</p>                  | <p>小松漆器店</p>                   | <p>平市田町(新田町)</p> <p>電四三三一・四三三二</p> | <p>平駅前 TEL4400</p> | <p>砂押忠八商店 平支店</p>                                                                    |
| <p>堀薬局</p> <p>平市二丁目電2326</p> | <p>小松錦治</p> <p>平市二丁目 電三二九二</p> | <p>神谷薬品株式会社</p>                    | <p>ヨシタカハシ</p>      | <p>砂押忠八商店 平支店</p>                                                                    |





南北朝岩城史

(+)

伊賀氏と国魂氏と

高  
菡  
精  
玄

興國四年（恩永二年）六月十日に至つて、結城親朝は終に節を交し、武家方の石臺義房に応じ、八月十九日、叛を酬して足利氏に属するの態度を鮮明にした。この結果十一月十一日、十二日は、三ヶ月に亘る籠城の苦心も空しく、関、大宝の両城ともに陥り、城氏関氏部少輔宗祐、伊豆守家政の父子及び下妻修理政泰はこれに殉じ、親房は吉野に帰られ、常陸に於ける官方の拠点は全く喪失し宇津峰城に對する圧力は次第にまして来たのであった。

屈いている。次いで同月十九日には、天下泰平、家門繁昌の祈願のため、義房は中平窪村、三田彦四郎入道の跡を飯野八幡に寄進してゐるところから推察すると、盛光はこの催状によつて急速義房のとてうへ馳せ集まつたものと想われる。国親行泰も、今は武家方として、この年の六月には吉良治家のもとに属して宇津峰城攻撃に従軍したことは著到状が残つてゐることによつて知られる。細々要記には「常陸奥州の合戦武家方勝利。官軍多く武家方に属す云々」

翌正平元年（貞和二年）には吉良右京太夫家を奥州に派遣した。この畠山、吉良の両氏を中心として、結城親朝らがこれを決けて武家方は大いに優勢を爲つてやつた。そこで二月になると相馬親胤、伊賀盛光等を国府に会せしめ、諸城進撃のことを謀らせた。二月九日付の盛光あての出府命令がそれである。翌正平二年

# 組織強

(貞和三年)七月、大日本史によれば「結城修理大夫顯朝(親朝の子)、相馬親胤等来り攻めければ、顯信敗走」との簡単な記事がある。

これはその頃春日顯信が、兵を藤田・掛田・雲山・梁川・蓮沼・榑田村の諸城に分つて拠つてゐたのを、伊賀盛光等武家方がこの攻略に従事し記事のように敗走せしめたのであるが、その時の戦況が飯野文書に詳しく出ているので暫くこれにしようとする。

盛光・行泰も、武家方の総帥ともいへば奥州探題吉良貞家の与虎仁不式部太輔の手に属して、七月十八日銚推の城に馳参した。結城親朝(病床に臥し)はその子顯朝を遣わし、相馬胤平は、その子左衛門次郎を派して同じく吉良貞家の軍に会せしめた。二十日宇保沢等山に陣を取つて、坂口を塞ぎ固め、二十一日には吉良貞家は諸軍を指揮して、藤田城の正門に押し寄せたが、官方は西郷手から出て来てこれを防いだので散々た合戦したし、これを城内に追ひ返してしまつた。二十一日仁不氏は行泰、盛光等の兵を併せて再び強硬に攻め立てた時、盛光は、大将の眼前に於いて、その攻め口、大手の本戸で身命を捨てて散々合戦をいたし、その若党右馬六・郎友・良家の目安状をいただいたのであつた。

(筆者は内郷高教諭

# 組織強化と近代化へ

# 中小企業の振興策を協議

興國五年（康永三年）になると、関東、陸奥に於ける言方唯一の牙城、宇津峰城攻略は愈々活発となり、伊賀盛光今度は武家方としての国親行泰の再登場となったのである。即ち四月十四日、石堂義房の子左馬助盛元が宇津峰城攻撃のため、同月十七日まで一族を相俎して参集するやうにとの催状が伊賀盛光の所に

が相当苦境に立っていたことが知られよう。しかし八月になると豊山城からも、信方伊達の二郡に出撃するやうなこともあり、この頃から多少攻勢に出るようになった。

興國六年（貞和元年）には順信は、次第に勢力をもち返して来たので、足利尊氏はこれに対抗するめ石堂義房を上京せしめ、畠山右馬権頭国民を

企業の九十二パーセントを占めるといわれる中小企業が、大企業に比し経営や設備の合理化、近代化が遅れているため経営状態はあまりよくない。それどころか困った状態になっている所もあるので、これが振興策は中小企業当面の重要問題で十一月中は全国的に「中小企業組織強化促進月間」と定めている。それで平市及び平商工会議所では十二日中小企業者約八十名を県石城事務所集めて「中小企業の振興には先づ組織の強化を」とテーマに懇談会を開いた。県から堀部副知事、薄井平工課長も出席。司会に平市樋口助役、鯉岡商工課長が当り、▽中小企業は日本経済の復興に大きな貢献をした▽中小企業は苦しい立場にある▽中小企業の近代化を図るには▽組織の強化を図る▽最低賃金の導入を要する▽中小企業退職金共済制度が充足した。などの問題について協議しが結局同種同業者間の従来、悪略であったつまるゝ反目、

旅館に泊り金を紛失

預けぬ場合賠償は少額

**法律相談**

は責任がないと云っています  
が、そうでしょうか。

問 私は漁類の加工商に勤めていたのですが、先日集金に出張して、旅館に泊った際部屋の中に置いてあった金になりました。鞆の中は集金した八万円が入っていました。旅館の主人は貴重品なのに旅館に預けなかったから旅館に失火は毀損した場合は、それ

答 鞆がなくなった原因が問題のようです。商法の規定によりますと、旅館、飲食店等いわゆる「客ノ来集ヲ目的トスル場所」の主人は客から預った物についてはそれが滅失又は毀損した場合は、それ

(磐城市会社社員)

りした場合は、やはり損害賠償の責任を免れません。それで御質問の場合は旅館に預けなかったのですから、損害を請求するに於ては旅館の不意でなくなつたことが必要です。旅館の使用人が盗んだとか、旅館の戸締りが悪くて泥棒が通であり、貴方が泊つた際に預けるように云われたとすれば、預けないでいたことが、貴方の過失がありまして、損害賠償については、貴方の過失も斟酌されて賠償額はすつと少なくなります。（回答者山野辺政豪弁護士）

日午前十時から開くが、落  
を祝して東京から女剣劇不  
洋子一行三十名を招き二十  
日から三日間無料で市民に  
せる。廿九日には絵画、書  
図画、写真などの文化展  
十日は敬老会を開き十二月  
に開放する。

# 二宮尊徳の遺訓

(19)

宇都宮の材木町の渡辺某の  
お母であつた梅さんは當時物  
づから井村の清沢の娘で、彼のこ  
ろに女中をしていた人であつ  
たが、その人の昔話に「私が  
二宮さまについて感じました  
ことは、根氣のお強かつたこ  
とであります。」

駒は大へん早くお起きになつ  
て、行灯の下で水のかげにな  
つてゐるご飯に湯をかけたは  
つて、お茶を二杯飲み、ま

しやるときは、いつでも腰巾  
を調べておりました。私がい  
までも思れるものできない  
ことば、二宮さまの怒られた  
ときは、お願が常とはまつた  
くかわり、そのおそろしさは  
なんと申し上げようがないほ  
どでした。またそれとは反対  
に、お笑いになったときは、  
さううれしそつに笑われまし  
た。目しりが下がつてなんと  
もいえない氣持のよい笑い方  
をなさいました。

灰 皿

.....

かつかにつらうといふはなかつたがつかれると野でも山でもかまわずにやすまれるのはごまるといふていたさうです。

二宮様はなかなかやかましいお人なので、私が悠閑の御障屋におりました時分には、諸方から弟子入りでありまして一時は百人余もあったかと思ふに、別に小言をおつしやるわけではございませんが、藝の方はみなこわがていまつた。戯談はいわれなかつたように思います。家にいらつ

笑わきたり困らせたりしてゐました。その内誰か相手にしなくなつたので、諸国を廻つてふと東海道を鎌倉までやつてきました。ふとみると、「これより右はらふき村」と道しるべが立つていたので早速は臺丹で村の方へいきまして道に男の子がいたので「はらふきくらへに來たから案内してくれ」といいますと、子どもは「父さんは臺士山が倒れそだつたので、線香三三を持てつつかい棒を三三」と答えました。男はちやう

娯楽映画は **東映** 三夜東映

**東映スコープ**

毎週東映3本立

大 70円 差 50円 小 30円

18日より～24日まで  
蜘蛛の巣屋敷 (天)  
黒い指の男  
ゆうれい小判  
~~~~~  
次週 25日～12月1日  
母しぐれ  
あはれ街道 (天)  
鞍馬天狗 (天)

平日10時・日曜祭日9時より  
新装開館 **映東夜三**  
平警察署前・電(平)3-936

ふ ふ  
く く  
さ ち

うなぎの

樓

よつと面くらいました。が「それではお母さん」となすねます。「昨夜髭鬚湖の水がもれ出したからきてくれといわれて、これ三袋もつて出かけてたまに」これいました。男はさきに「それはそれと、奈良の大仏の大約額がこの間の風で東の方へとんだがこのへんにおちなかつたか」とたずねますと、子どもは「あそこねなら、家の勝手屋の屋根の上のくもの巣にひつかつて動いてたよ」と答えました。さきが男もこれにはあきびんさげて「子どもでできたこれだ、十人はどんなだろうと恐ろしくつて逃げてかえりました。

公認  
 平宅地建物  
 平市才植小路踏切際 色川

不動産売買仲介評価代  
 日本電建専属工事人  
 山崎 磐城  
 いわき 平市  
 沼田 茨城  
 大友 石城郡上

建設 市電九六四  
建設 電四四三七  
土務店  
建設 遠野町電二二  
家幹旋  
物取引所  
木不炭電三六一

# 初冬の装は

百 合 で

化粧品 洋品 アクセサリー  
平駅前大通 T 5 7 2 1

靴 鞆 ハンドバツク  
平市二丁目 T 5 7 2 2

帽 子  
平市三丁目大通 T 5 7 2 3

内外青果物委託問屋  
株式会社 国井一  
代表取締役 **国**

国井一美

平市新川町 電二六九六

大衆のデラックス  
大キヤバレ

フ  
ラ  
ワ  
ー

平市田町電二〇〇四・五四四

株式会社 国井一美商店

代表取締役  
国井

平市新川町 電二六九六